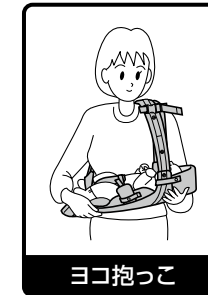


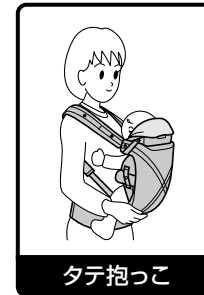
抱っこひも
コランビッテ

取扱説明書／保証書

このたびは、Aprica製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品は新生児から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。



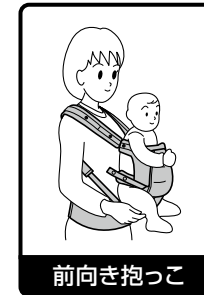
ヨコ抱っこ



タテ抱っこ



おんぶ



前向き抱っこ

※腰ベルトサイズ:74cm～118cm。 ※体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読みのうえ正しくお使いください。
お読みになった後は、本書はいつも取り出せる場所に必ず保管してください。
本書に記載されている以外の方法で使用しないでください。製品の機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-13-13

お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

受付時間:AM10:00～PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

〈お願い〉

- ・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
- ・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
- ・製品の品質向上のため予告なしに一部仕様変更する場合がありますのであしからずご了承ください。

もくじ



ご使用前に	
抱っこひもについて／表示内容について	1
使用できるお子さまの月齢および体重について	1
安全にお使いいただくために	2
ご使用上の注意	3-4
製品を取り出した時に	5
腰ベルトの準備／よだれパッドの使い方	6
ヘッドサポート・おやすみカーテン	6
バックルの使い方／ベルトの調節方法	7
ヨコ抱っこ〈新生児から 体重7kgまで〉	
ヨコ抱っこの準備	8
ヨコ抱っこの装着方法	9-10
ヨコ抱っこの降ろし方	10
ヘッドサポートの取り外し	11
本体の折りたたみ方	12
ヘッドサポートの取り付け	13
タテ抱っこ〈首がすわってから 体重15kgまで〉	
タテ抱っこの準備	14
タテ抱っこの装着方法	14-16
タテ抱っこの降ろし方	16
月齢が小さい時／おやすみカーテン	17
おんぶ〈首がすわってから 体重15kgまで〉	
おんぶの準備	18
おんぶの装着方法	18-20
タテ抱っこからおんぶへ	21-22
おやすみカーテン	23
月齢が小さい時	24
おんぶの降ろし方	24
前向き抱っこ〈ひとり座りができてから 体重13kgまで〉	
前向き抱っこの準備	25
前向き抱っこの装着方法	25-28
前向き抱っこの降ろし方	28
腰ベルトを付けた状態で抱っこひもを折りたたむ場合	29
その他	
Q&A	30
点検について／お手入れについて	31
SGマーク制度について	32
保証とアフターサービスについて	33
保証書	34



抱っこひもについて

・この製品は、お子さまを抱っこやおんぶして、外気浴、買い物の時などに使用するための1人用抱っこひもです。
ご使用前にP5「各部の名称」をご確認ください。

表示内容について

・「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表 示	表 示 の 内 容
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。
	製品の取り扱いで知っておくと便利な内容です。

使用できるお子さまの月齢および体重について

・SGマーク被害者救済制度の対象は赤ラインでのご使用時です。黒ラインでのご使用時(抱っこひもをタテ抱っこの状態で24カ月を超えてから36カ月までのお子さまに使用)は対象となりません。SGマーク被害者救済制度につきましては本書P32を参照ください。

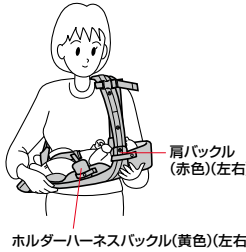
参考月齢	0カ月	1カ月	4カ月	7カ月	24カ月	36カ月	体 重
ヨコ抱っこ	2.5kg 新生児から4カ月(体重7kg)まで						7kgまで
タテ抱っこ	首がすわった4カ月から36カ月(体重15kg)まで						15kgまで
前向き抱っこ	ひとり座りができる7カ月から24カ月(体重13kg)まで						13kgまで
おんぶ	首がすわった4カ月から36カ月(体重15kg)まで						15kgまで

※お子さまの発育は個人差がありますので月齢表示は目安にしてください。
※お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。

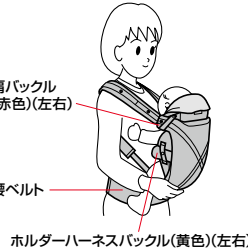
安全にお使いいただくために

- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて、きつめに調節してください。
- ・脚部を露出したお子さまに使用された場合、肌に抱っこひもの跡がついたり、まれに肌がこすれて赤くなることがあります。その場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当て、抱っこひもに直接触れないようにしてください。

ヨコ抱っこ



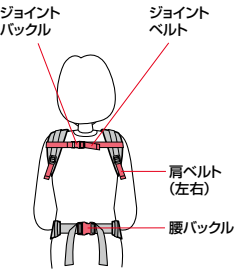
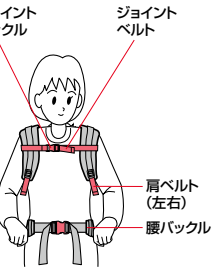
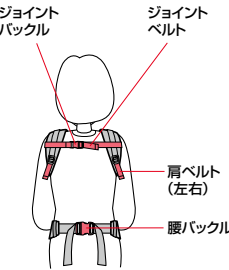
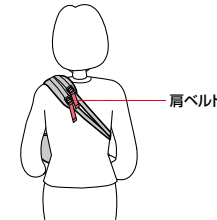
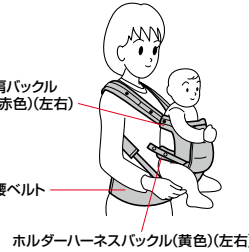
タテ抱っこ



おんぶ



前向き抱っこ



- ・抱っこするときは、必ず手で支えてください。お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下するおそれがあります。
- ・肩バックル(赤色)、腰バックル、ジョイントバックル、ホルダーハーネスバックル(黄色)を外した状態で使用しない。
- ・お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節してください。
- ・お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。
- ・ヨコ抱っこ、タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこでの使用時は、ホルダーハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

ご使用上の注意

・ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

警告

・誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

肩バックル(赤色)、腰バックル、ジョイントバックル、ホルダーハーネスバックル(黄色)を外した状態で使用しない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルト、ホルダーハーネスベルトは必ず調節し、緩めた状態で使用しない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



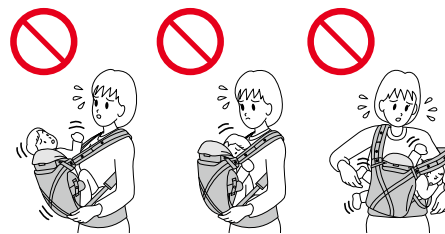
抱っこひも使用時は肩バックルカバー面ファスナーはとめない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



タテ抱っこ、前向き抱っこ、おんぶは首のすわらない、お子さまに使用しない。
お子さまが体調を損なうおそれがあります。



タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこの使用時は、お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



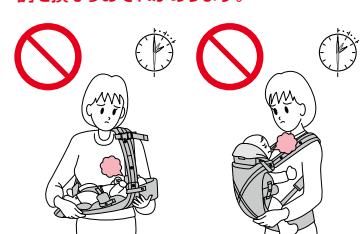
抱っこひもの肩バックル(赤色)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーを外した状態で使用しない。お子さまが指をけがするおそれがあります。



リュックサックなどと併用しない。
バックルと干渉し、バックルが外れてお子さまが落下しけがをするおそれがあります。



授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
装着状況を確認する必要があるため、連続2時間以上使用しない。お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。



警告

・誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- ・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。また、人に介添えてもらうのが望ましい。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・早産時及び呼吸器疾患等のある乳児は、生後14日以降からでも使用を控えてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ヘッドサポートを本製品以外に使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・本製品を改造(染色など)しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ヨコ抱っこではヘッドサポートを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・ヨコ抱っこでは、体重7kgを超えるお子さまや寝返りのできるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・タテ抱っこ、おんぶでは15kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・使用時は必ずホルダーハーネスを取り付けること。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・生後4カ月未満の乳児は、装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。乳幼児が開口部から落下するおそれがあります。
- ・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際にお子さまが落下しないように気を付け、手で支える。またお子さまの頭が下向きにならない様に膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・お子さまの気道をふさぐ事がないように状態に注意しながら使用すること。窒息や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき、気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ヨコ抱っこでは、必ずヘッドサポートを取り付ける。お子さまの気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・ベルトの先端の返し縫い部をほどこたり、切り落とした後に使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの顔が下がらないように左手でささえる。お子さまが落下したり思わぬ事故につながります。

注意

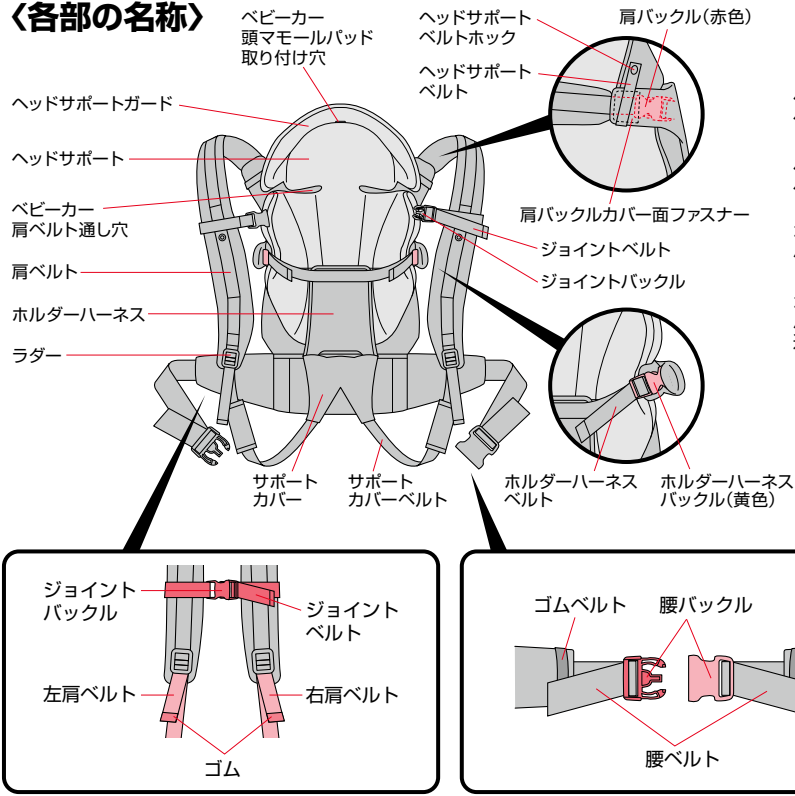
・誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

- ・バックルは使用していない時も外したままにしない。お子さまがバックルに指を入れるおそれがあります。
- ・抱っこでは足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には充分注意してください。
- ・暖房器具の近くなど高温になる場所に放置しない。
- ・直射日光のあたる場所に保管しない。変色や劣化が早まります。
- ・洗濯する際は面ファスナーをとめてください。面ファスナーや本製品の生地および他の洗濯物がいたむおそれがあります。
- ・装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快感を感じた時は直ちに使用を中止してください。
- ・その他、荷物などの運搬や、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用。

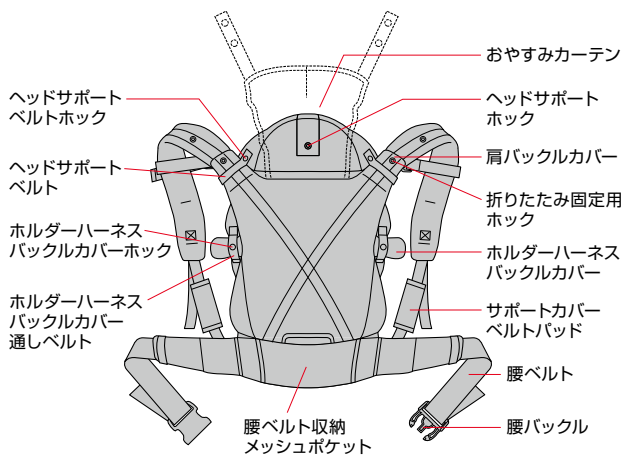
製品を取り出した時に

- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかを確認してください。
- ・欠品や破損の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。
- ・腰ベルトは腰ベルト収納メッシュポケットに収納されています。

各部の名称



- ・ヘッドサポートは本体にセットされています。
- ・おやすみカーテンはヘッドサポートと本体の間に収納されています。



※品番・ロット番号は品質表示ラベルに記載されています。
品質表示ラベルは、腰ベルト裏側に縫い付けられています。

付属品



よだれパッド

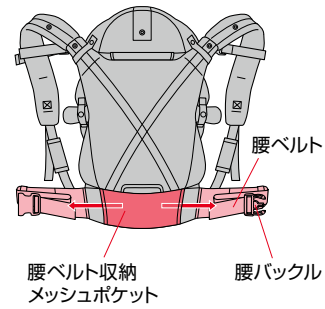


取扱説明書／保証書
(本書)

腰ベルトの準備

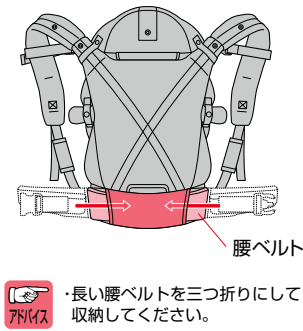
腰ベルトの取り出し方

- ・腰ベルトを腰ベルト収納メッシュポケットから取り出す。(左右)

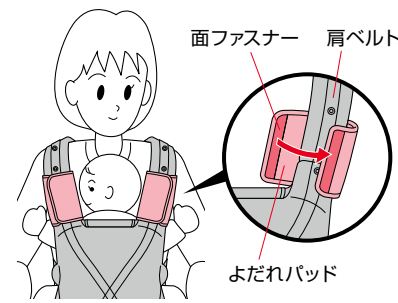


腰ベルトの収納方法

- ・腰ベルトを折りたたんで腰ベルト収納メッシュポケットに入れる。(左右)



よだれパッドの使い方



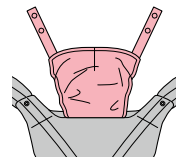
- ・肩ベルトに巻き付け、面ファスナーでとめる。
(折り返しが、お子さまの顔の外側に向くようにする。)

ヘッドサポート・おやすみカーテン

ヘッドサポート・おやすみカーテンを使用する時期



ヘッドサポート



おやすみカーテン

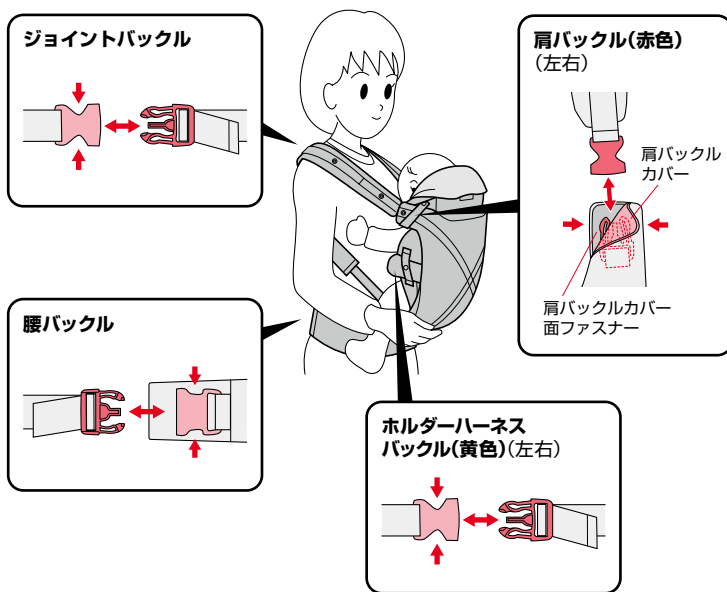
ヨコ抱っこ	・ヘッドサポートは必ず使用してください。 ・おやすみカーテンは使用できません。
タテ抱っこ	・首がすわる頃からひとり座りができる7カ月頃まではヘッドサポートを使用できます。 ・お子さまの成長に伴い、窮屈な場合は、ヘッドサポートを取り外しても使用できます。 ・おやすみカーテンを使用する場合は、ヘッドサポートを取り外してください。
前向き抱っこ	・ヘッドサポートを取り外して使用してください。 ・おやすみカーテンは使用できません。
おんぶ	・首がすわる頃からひとり座りができる7カ月頃まではヘッドサポートを使用できます。 ・お子さまの成長に伴い、窮屈な場合は、ヘッドサポートを取り外しても使用できます。 ・おやすみカーテンを使用する場合は、ヘッドサポートを取り外してください。

バックルの使い方

警告

- ・肩バックル(赤色)、腰バックル、ジョイントバックル、ホルダーハーネスバックル(黄色)を外した状態で使用しない。
- ・抱っこひもとして使用時は肩バックルカバー面ファスナーはとめない。
- ・お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・肩バックル(赤色)を外した時は肩バックルカバー面ファスナーをとめる。
- ・お子さまがけがをするおそれがあります。

- ・バックルをとめるときは「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ・バックルを外すときは → ← を押して解除する。



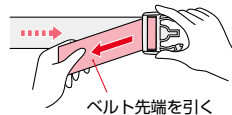
ベルトの調節方法

警告

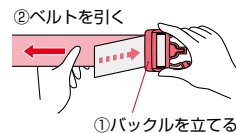
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。
- ・お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

腰ベルト・ジョイントベルト・ホルダーハーネスベルト

＜短くする時＞

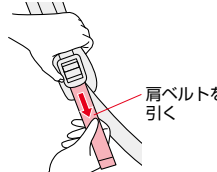


＜長くする時＞



肩ベルト

＜短くする時＞

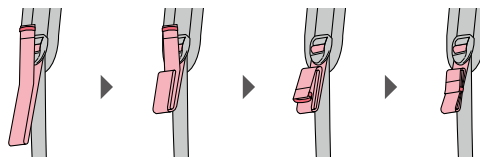


＜長くする時＞



＜あまったベルトをゴムでまとめる＞

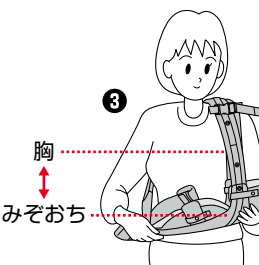
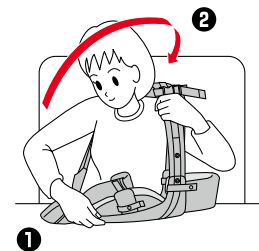
- ・あまったベルトを折り返し、ゴムでまとめる。



ヨコ抱っこの準備

※お子さまを乗せる前に、装着者の身体に肩ベルトがあうように長さを調節します。

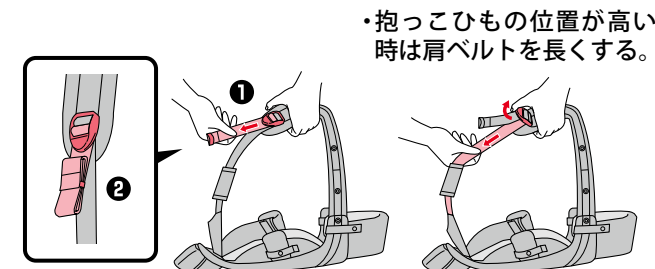
- ①腰ベルトが収納されていることを確認する。(P6参照)
- ②左右の肩ベルトを重ねて、抱っこひもを肩から脇へ斜めにかける。
- ③肩ベルトの長さを調節し(P7参照)、高さやアングルを確認する。



アドバイス 抱っこひもの位置は、装着者のみぞおちより上、胸より下を目安にしてください。

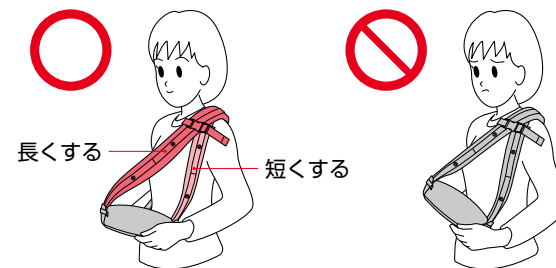
＜高さの調節＞

- ①抱っこひもの位置が低い時は肩ベルトを短くする。(P7参照)
- ②ベルトをゴムでまとめる。(P7参照)



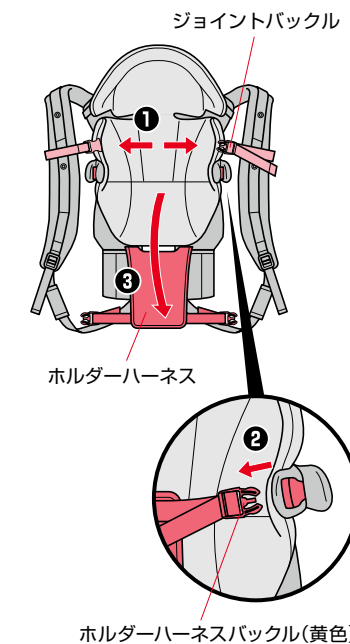
＜アングルの調節＞

- ・装着者の身体に近い方の肩ベルトを短めに調節(10cm程度)すると、お子さまをより安定して抱っこできます。



＜抱っこひもの準備＞

- ①ジョイントバックルを外す。
- ②左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。
- ③ホルダーハーネスを広げる。

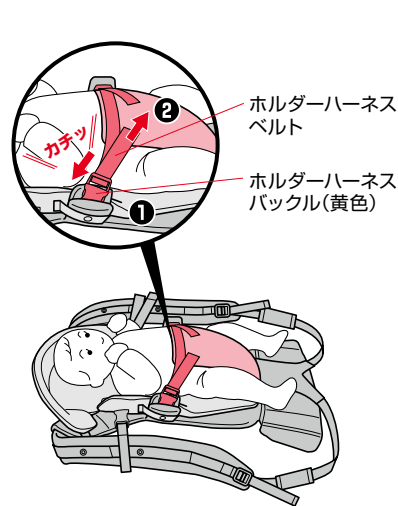


ヨコ抱っこ

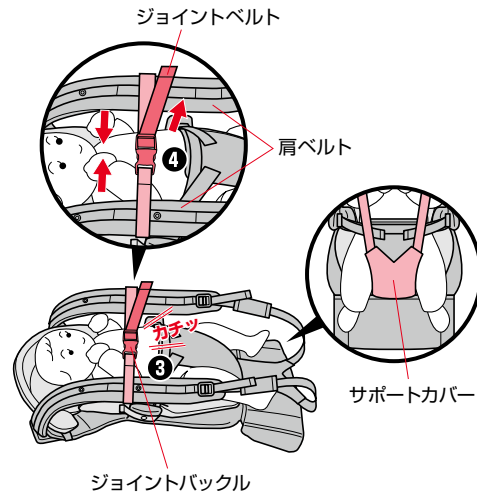
新生児～首すわり 体重 7 kg

ヨコ抱っこの装着方法

- ①安全な場所で、抱っこひも本体にお子さまを乗せ、左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ②左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



- ③ジョイントバックルを「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ④左右の肩ベルトを重ねて、ジョイントベルトの長さを調節する。(P7参照)



- ⑤重ねた肩ベルトを肩から脇へ斜めにかける。



肩に負担がかかる場合は肩ベルトを調節しておしてください。



・ヨコ抱っこではヘッドサポートを外した状態で使用しない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
 ・ヨコ抱っこでは寝返りのできるお子さまや、体重7kgを超えるお子さまに使用しない。
お子さまが落下するおそれがあります。
 ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
 ・抱っこする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気を付け、手で支える。また頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。
お子さまが落下するおそれがあります。
 ・着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。
お子さまが開口部から落下するおそれがあります。



・ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの顔が下がらないように左手でささえる。
お子さまが落下したり思わぬ事故につながります。
 ・お子さまを保護者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。
本製品内で窒息するおそれがあります。
 ・乳幼児を保護者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。
本製品内で窒息するおそれがあります。
 ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。
 ・お子さまの状態に注意しながら使用する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

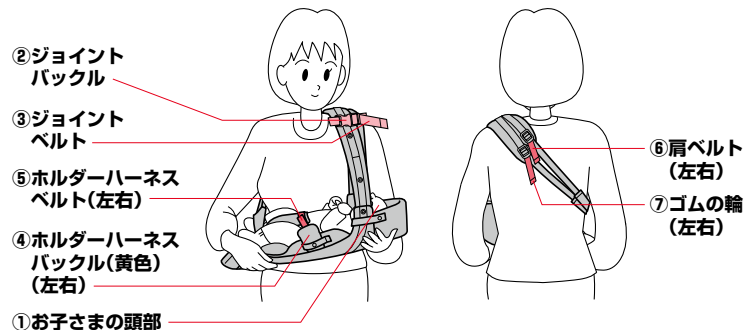
- ⑥鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。
 正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。



・正しく装着されていないと、**お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。**

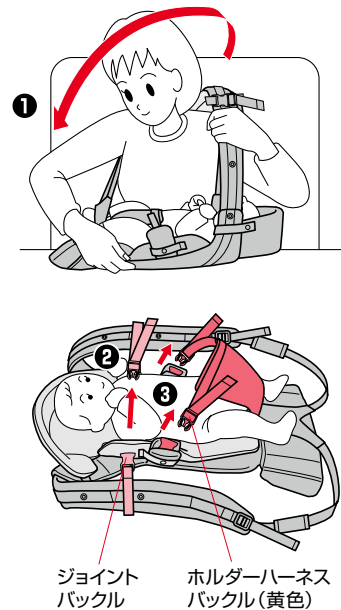
ヨコ抱っこの確認

- ①お子さまの頭部がお尻より高い
- ②ジョイントバックルが確実にとまっている
- ③ジョイントベルトを調節している
- ④ホルダーハーネスバックル(黄色)が確実にとまっている
- ⑤ホルダーハーネスベルトを調節している
- ⑥肩ベルトを調節している
- ⑦肩ベルトの端部が長い時はゴムの輪でまとめている



ヨコ抱っこの降ろし方

- ①お子さまを寝かせ、肩ベルトをはずす。
- ②ジョイントバックルを外す。
- ③左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外し、お子さまを降ろす。



・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

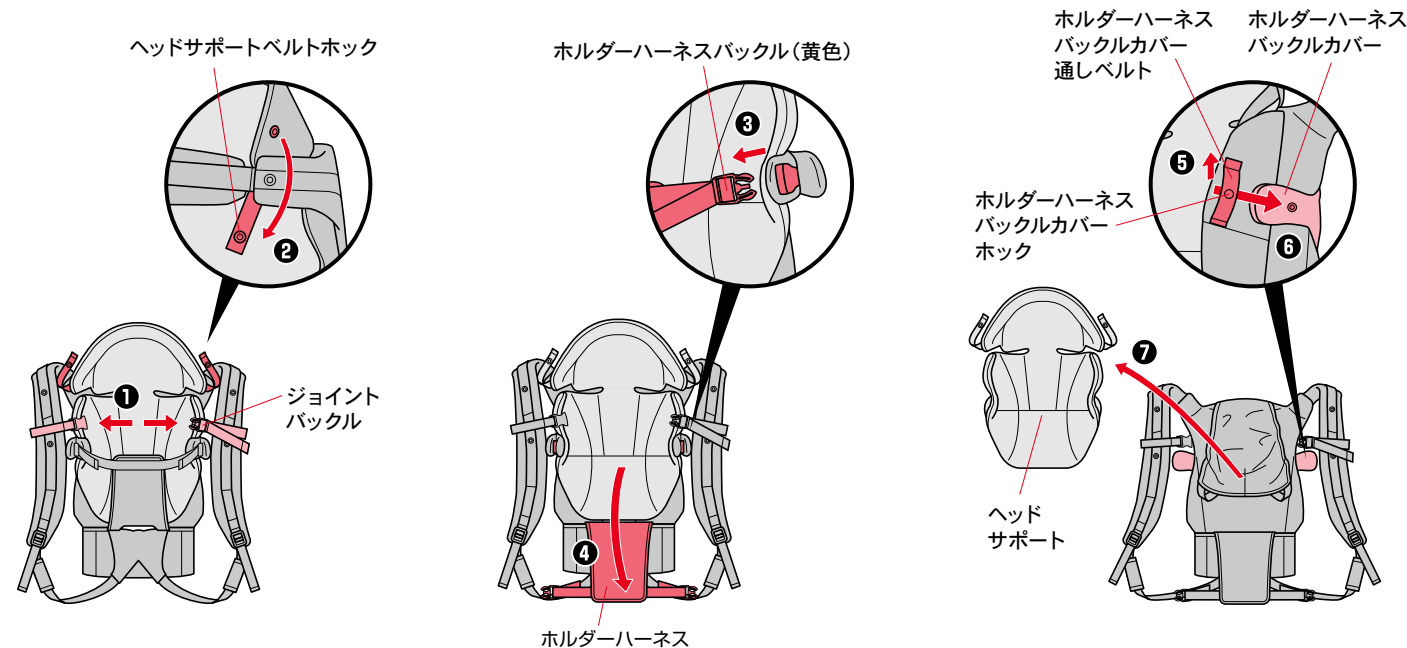
ヘッドサポートの取り外し

※ヘッドサポートは、箱から取り出した状態では、本体にセットされています。

- ①ジョイントバックルを外す。
- ②左右のヘッドサポートベルトホックを外す。

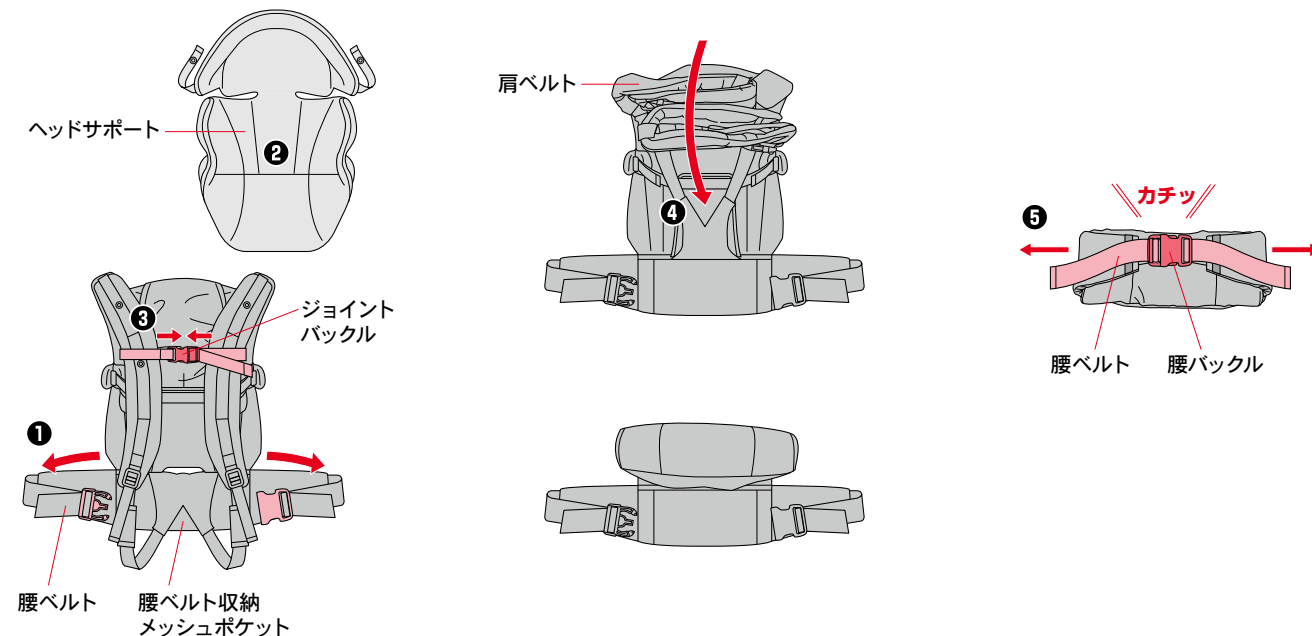
- ③左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。
- ④ホルダーハーネスを広げる。

- ⑤左右のホルダーハーネスバックルカバーホックを外す。
- ⑥左右のホルダーハーネスバックルカバーをヘッドサポートのホルダーハーネスバックルカバー通しベルトから抜く。
- ⑦ヘッドサポートを取り外す。



本体の折りたたみ方

- ①腰ベルトを腰ベルト収納メッシュポケットから取り出す。
- ②ヘッドサポートを取り外す。
- ③ジョイントバックルをとめる。
- ④左右の肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ⑤腰バックルをとめて、腰ベルトを調節する。(P7参照)



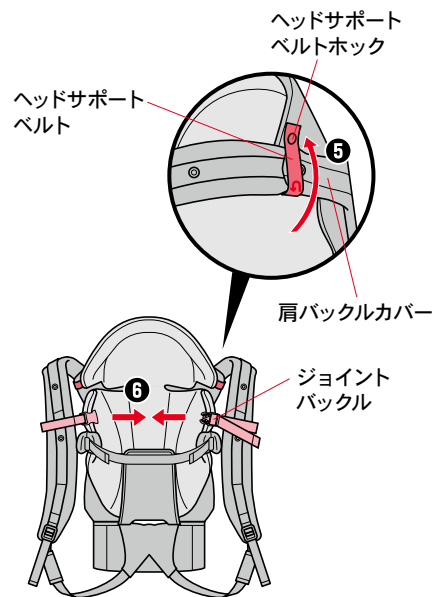
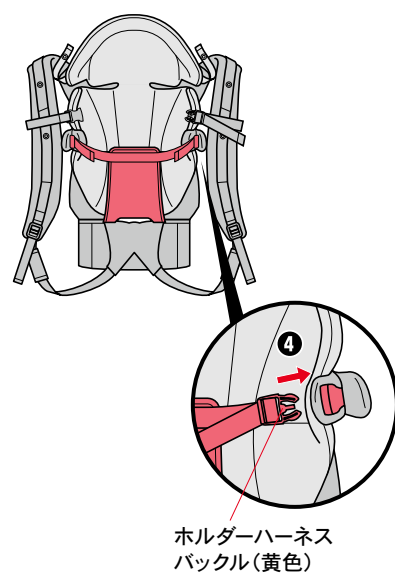
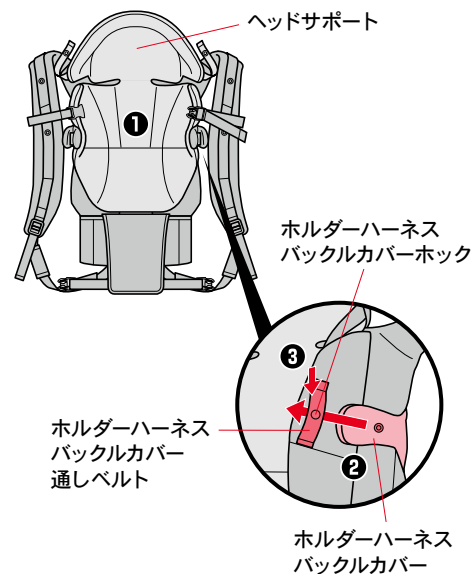
※腰ベルトを付けた状態で抱っこひもを折りたたむ場合は、P29を参照ください。

ヘッドサポートの取り付け ※ヘッドサポートは、箱から取り出した状態では、本体にセットされています。

- ①ヘッドサポートを抱っこひもにのせる。
- ②左右のホルダーハーネスバックルカバーをヘッドサポートのホルダーハーネスバックルカバー通しベルトに通す。
- ③左右のホルダーハーネスバックルカバーホックをとめる。

- ④左右のホルダーハーネスバックル(黄色)をとめる。

- ⑤左右のヘッドサポートベルトを肩バックルカバーに巻き付け、ヘッドサポートベルトホックをとめる。
- ⑥ジョイントバックルをとめる。

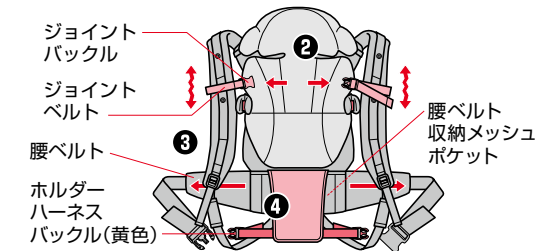
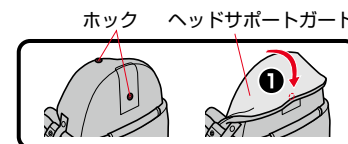


・ヘッドサポートを正しく装着する。
正しく装着されていないとお子さまが落下したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

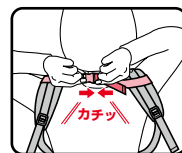
タテ抱っこの準備

・肩ベルトバックル(赤色)を外している場合は、左右の肩バックル(赤色)をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。その際面ファスナーはとめない

- ①ヘッドサポートガードを折り返し、ホックをとめる。
- ②ジョイントバックルを外す。
- ③腰ベルト収納メッシュポケットから腰ベルトを抜き出す。(左右)
- ④左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。

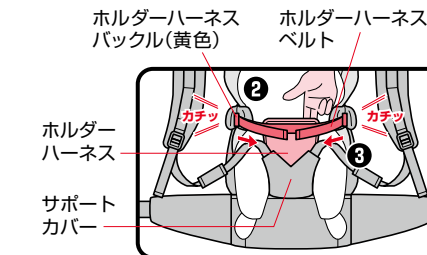
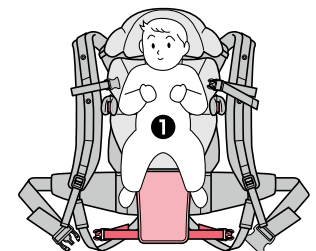


・ヘッドサポート装着時、おやすみカーテンは使用しない。
・ヘッドサポートを取り外して使用することもできます。
・ジョイントベルト②を上にはずすと、後で首の後ろでジョイントバックルがとめやすくなります。(P15)
⑤) 装着後、首あたりが痛い場合は下に下げてください。



タテ抱っこの装着方法 (つづく)

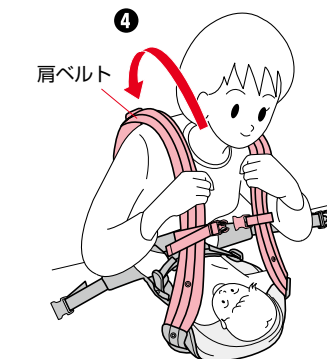
- ①安全な場所に抱っこひもを広げ、お子さまを寝かせる。
- ②左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



・お子さまのお腹周りは、大人の指が2〜3本入る程度にホルダーハーネスベルトを調節します。



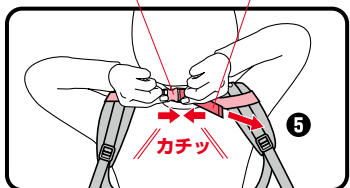
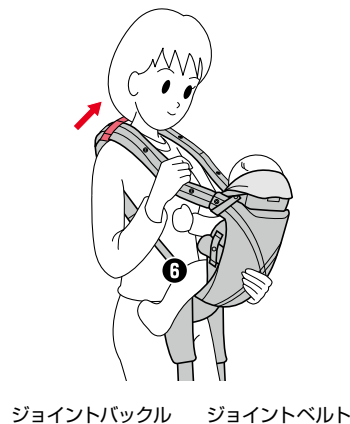
・ホルダーハーネスを必ず取り付けてください。
落下のおそれがあります。



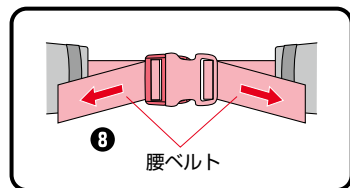
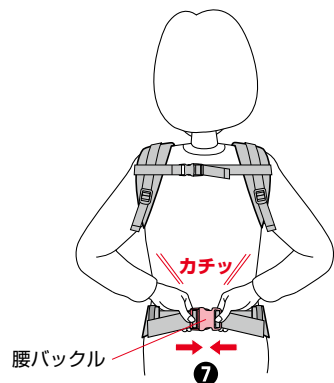
・腰バックルを取り付けてから、肩ベルトを左右の肩にかける手順でも装着できます。

タテ抱っこの装着方法 (つづき)

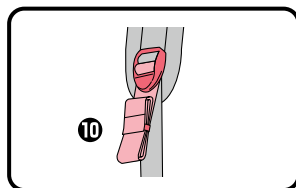
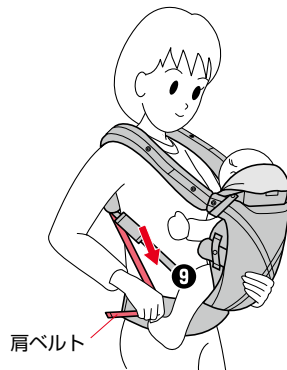
- ⑤首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
- ⑥お子さまの両足が外に出ていることを確認する。



- ⑦腰バックルを「カチッ」と音がするまで両手で差し込む。
- ⑧腰ベルトの長さを調節する。(P7参照)



- ⑨左右の肩ベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を調える。
- ⑩あまったベルトをゴムでまとめる。(P7参照)

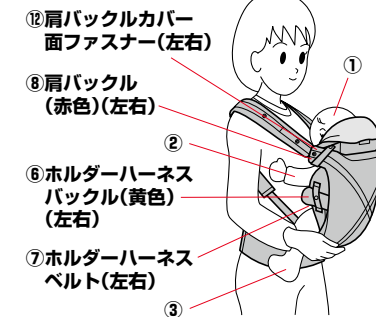


・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトを調節しなおしてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

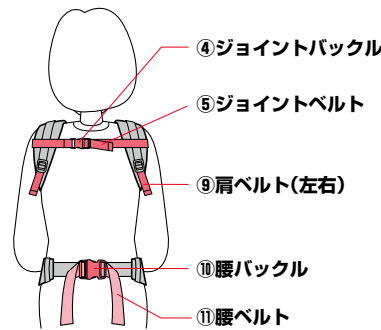
- ⑪鏡などに姿を映して、抱っこの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

タテ抱っこの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②お子さまの両腕が出ている
- ③お子さまの両足が出ている
- ④ジョイントバックルが確実にとまっている
- ⑤ジョイントベルトを調節している



- ⑥ホルダーハーネスバックル(黄色)が確実にとまっている
- ⑦ホルダーハーネスベルトを調節している
- ⑧肩バックル(赤色)が確実にとまっている
- ⑨肩ベルトを調節している
- ⑩腰バックルが確実にとまっている
- ⑪腰ベルトを調節している
- ⑫肩バックルカバー面ファスナーはとめていない



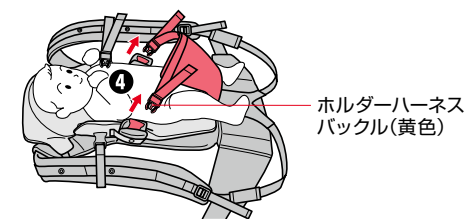
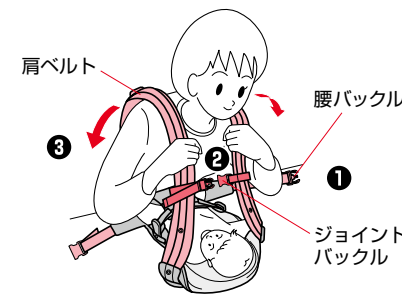
・ヘッドサポートを使用するときは、おやすみカーテンを本体とヘッドサポートの間に収納してください。



・鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

タテ抱っこの降ろし方

- ①腰バックルを外す。
- ②お子さまを安全な場所に寝かせ、ジョイントバックルを外す。
- ③左右の肩ベルトを肩からはずす。
- ④左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外し、お子さまを降ろす。



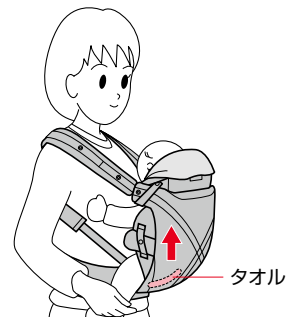
・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。



- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



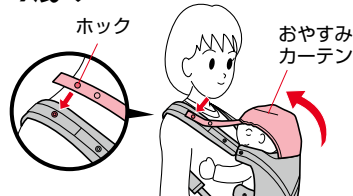
おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。
- ・おやすみカーテンを使用するときは、ヘッドサポートを取り外してください。

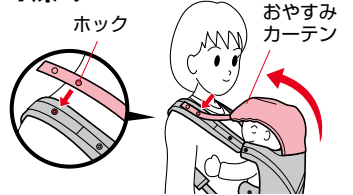
〈調節方法〉

- ・お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



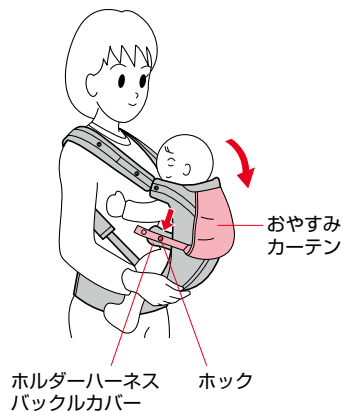
〈B〉深く



- 警告**
- ・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意してください。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

- ・ホックをホルダーハーネスバックルカバーにとめる。

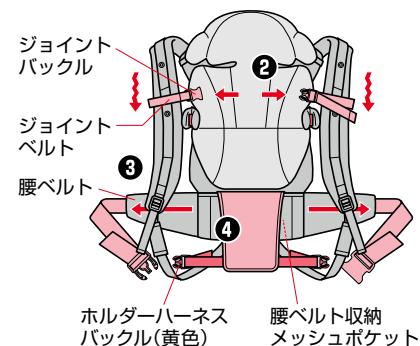
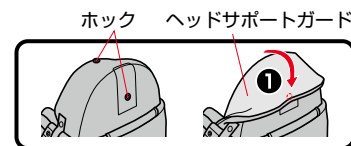


- 注意**
- ・お子さまが眠って後ろに反り返る場合は使用を中止してください。

おんぶの準備

- ・肩ベルトバックル(赤色)を外している場合は、左右の肩バックル(赤色)をねじれないよう「カチッ」と音がするまで差し込む。その際面ファスナーはとめない

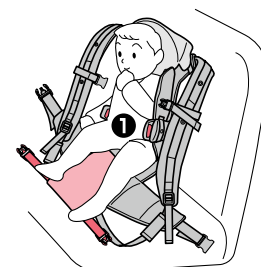
- ①ヘッドサポートガードを折り返し、ホックをとめる。
- ②ジョイントバックルを外し、ジョイントベルトを下に下げる。
- ③腰ベルト収納メッシュポケットから腰ベルトを抜き出す。(左右)
- ④左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。



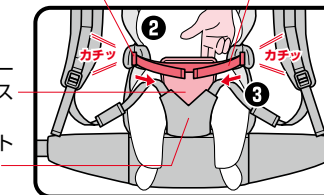
おんぶの装着方法

(つづく)

- ①安全な場所に抱っこひもを広げ、お子さまを座らせる。
- ②左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ③左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



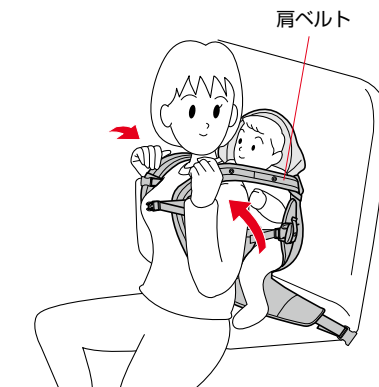
ホルダーハーネスバックル(黄色)



ホルダーハーネスバックル(黄色)

- 注意**
- ・お子さまのお腹周りは、大人の指が2〜3本入る程度にホルダーハーネスベルトを調節します。

- 警告**
- ・ホルダーハーネスを必ず取り付けてください。
落下のおそれがあります。



- ④左右の肩ベルトをかける。

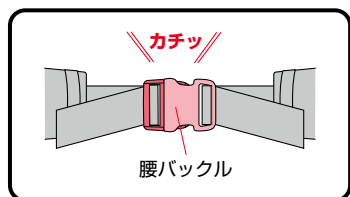
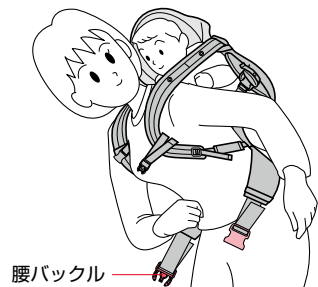
- 警告**
- ・お子さまをおんぶする時は、お子さまの動きに注意し、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝わってもらうとより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
 - ・お子さまの状態に注意しながら使用する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

首すわり〜体重15kg

おんぶ

おんぶの装着方法 (つづき)

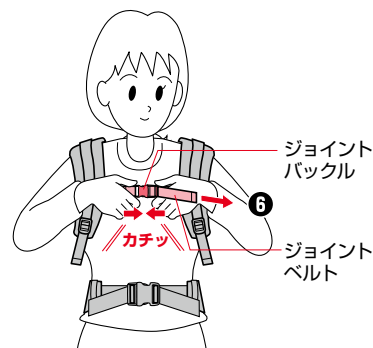
- ⑤前かがみの体勢でお子さまを背負い、腰バックルを「カチッ」と音がするまで両手で差し込む。



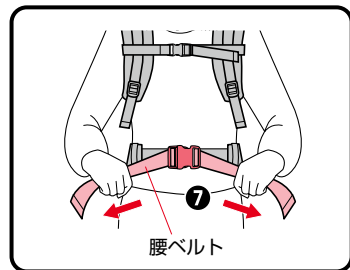
警告

・腰ベルトと装着者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。

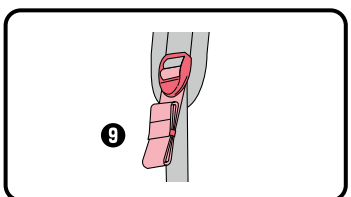
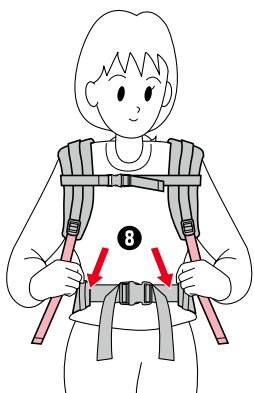
- ⑥ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)
⑦腰ベルトを調節する。(P7参照)



アドバイス ・ジョイントベルトの位置は、装着者に合わせ、苦しくない位置にすらせてください。

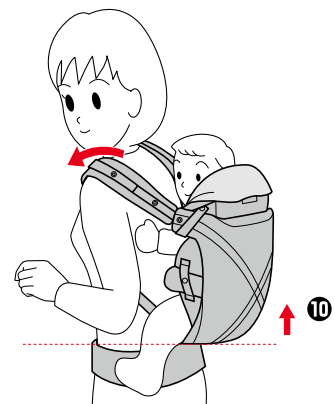


- ⑧左右の肩ベルトを調節する。(P7参照)
⑨あまったベルトをゴムでまとめる。(P7参照)



アドバイス ・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトを調節しなおしてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

- ⑩お子さまのお尻の位置が腰ベルトより高くなるように調節する。
(左右の肩ベルトを調節したり (P7参照)、腰ベルトの位置を下げる。)



アドバイス ・お子さまが装着者の腰に安定する位置にする。

警告

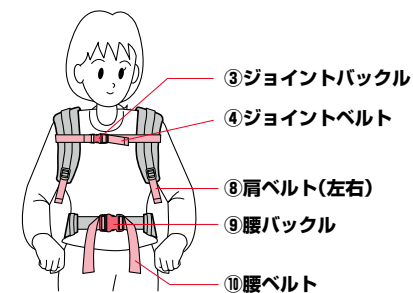
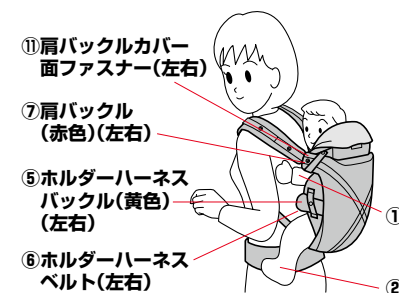
・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。氣道がふさがると窒息するおそれがあります。

- ⑪鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

おんぶの確認

- ①お子さまの両腕が出ている
②お子さまの両足が出ている
③ジョイントバックルが確実にとまっている
④ジョイントベルトを調節している
⑤ホルダーハーネスバックル(黄色)が確実にとまっている

- ⑥ホルダーハーネスベルトを調節している
⑦肩バックル(赤色)が確実にとまっている
⑧肩ベルトを調節している
⑨腰バックルが確実にとまっている
⑩腰ベルトを調節している
⑪肩バックルカバー面ファスナーはとめていない



アドバイス ・ヘッドサポートを使用するときは、おやすみカーテンを本体とヘッドサポートの間に収納してください。

警告

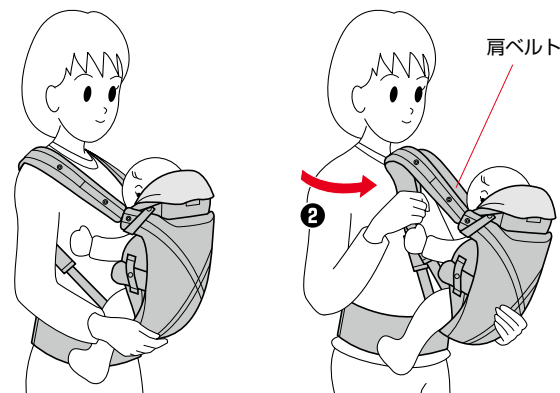
・鏡に映して、おんぶの状態を確認してください。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

タテ抱っこからおんぶへ

- ①タテ抱っこの状態でジョイントバックルを外す。
- ②お子さまを手で支えながら、左右の肩ベルトを肩からはずし、まとめる。

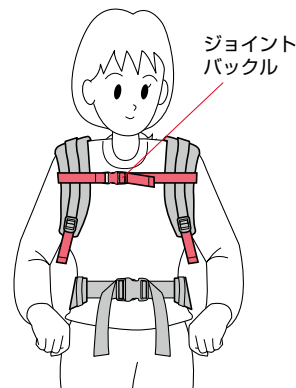


肩ベルト

- ③肩ベルトをしっかり持ち、前かがみの姿勢で、お子さまを支えて背中側にまわす。
- ④左右の肩ベルトをかける。

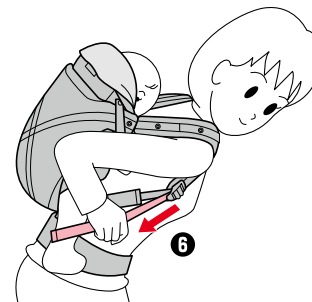


- ⑤ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)

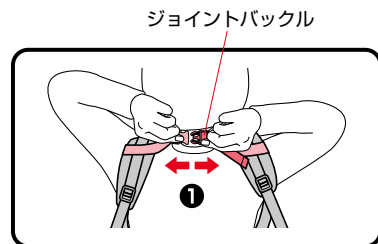


ジョイントバックル

- ⑥左右の肩ベルトを調節し (P7参照)、お子さまの位置を調える。
- ⑦あまったベルトをゴムでまとめる。(P7参照)



- ⑧鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。(P20参照)
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

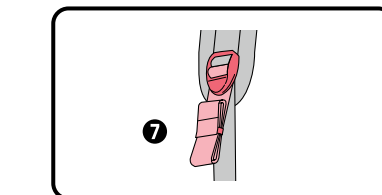
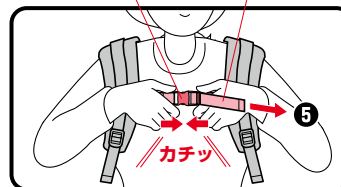


ジョイントバックル



・抱っこからおんぶへ変える時は、お子さまの動きに注意し、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらうとより安全です。**不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。**
・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。低い姿勢ではお子さまの頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。**お子さまが落下するおそれがあります。**
・お子さまの両足が出ていることを確認する。
お子さまの両足が出ていないとお子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。**気道がふさがると窒息するおそれがあります。**

ジョイントバックル ジョイントベルト



・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトを調節しなおしてください。
・一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。



・鏡に映して、おんぶの状態を確認してください。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

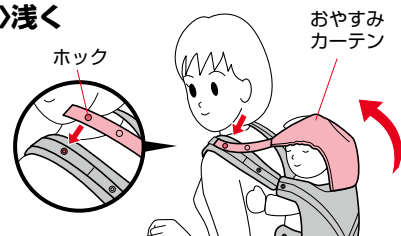
おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。

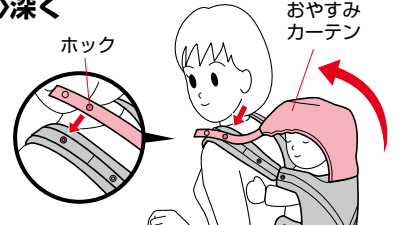
〈調節方法〉

- ・お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



〈B〉深く



・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがお子さまの顔を覆っていることを確認してください。正しくできていない場合は、もう一度調節をお願いします。



・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意してください。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

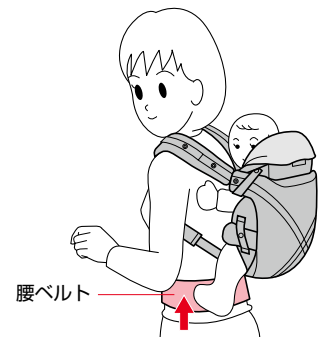
- ・ホックをホルダーハーネスバックルカバーにとめる。



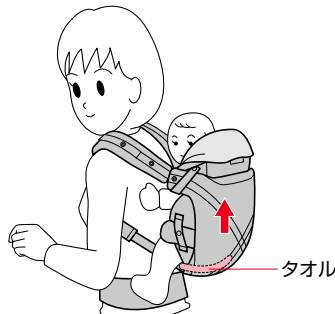
・お子さまが眠って後ろに反り返る場合はおんぶの使用を中止してください。
お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。

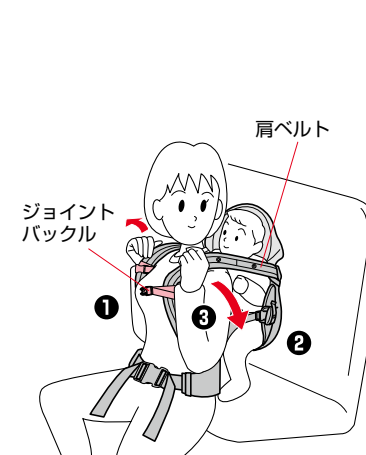


- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



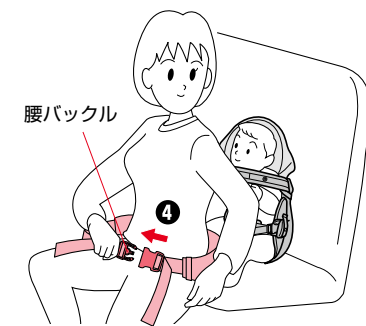
おんぶの降ろし方

- ① ジョイントバックルを外す。
- ② お子さまをゆっくり降ろす。
- ③ 左右の肩ベルトをはずす。

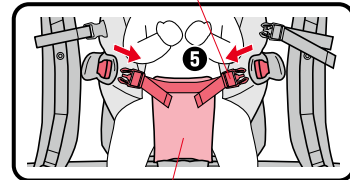


・イスが無い場合は、おんぶからタテ抱っこに戻して(P21④→⑤→⑥参照)、安全な場所にお子さまを降ろしてください。

- ④ 腰バックルを外す。
- ⑤ 左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。



ホルダーハーネスバックル(黄色)



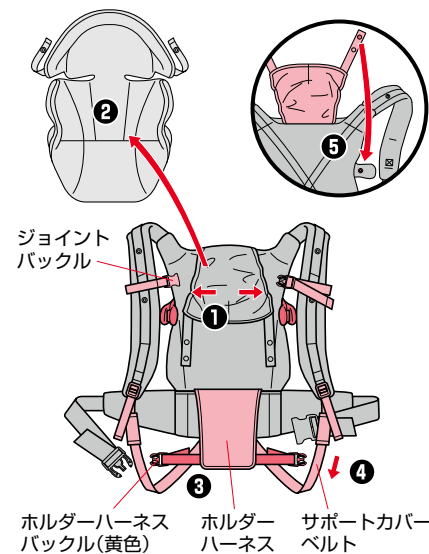
ホルダーハーネス



・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらったより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

前向き抱っこ準備

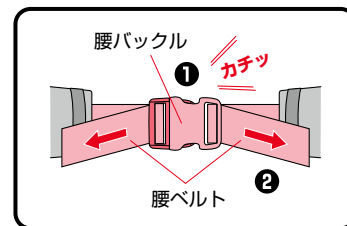
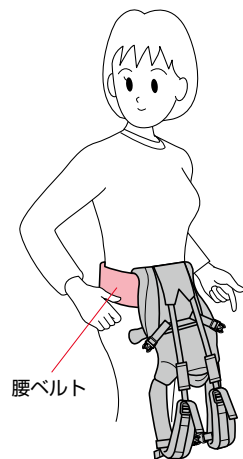
- ① ジョイントバックルを外す。
- ② ヘッドサポートを外す。(P11参照)
- ③ 左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。
- ④ 左右の肩ベルトを長めに調節する。(P7参照)
- ⑤ おやすみカーテンのホックをホルダーハーネスバックルカバーにとめる。(P23参照)



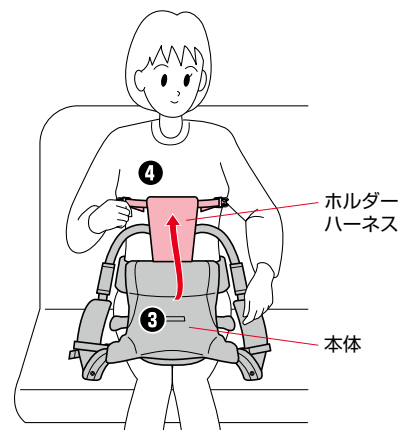
・腰ベルトはウエストより下の位置の方が、お子さまが前のめりにならずに装着できます。装着後は腰ベルトを適切な位置に調整しなおしてください。

前向き抱っこの装着方法

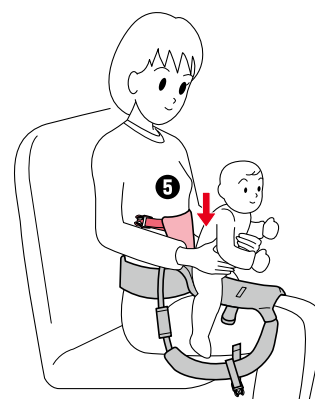
- ① 腰バックルをとめる。
- ② 腰ベルトを調節する。(P7参照)



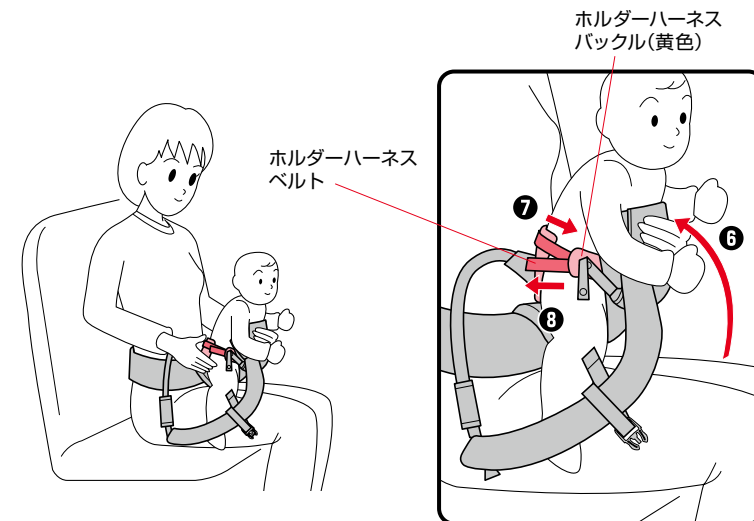
- ③ 安全な場所に座り、抱っこひも本体を膝の上に広げる。
- ④ ホルダーハーネスを広げる。



- ⑤ お子さまの体を前向きに抱っこひもに乗せる。



- ⑥ 本体でお子さまを支え、
- ⑦ 左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を「カチッ」と音がするまで差し込む。
- ⑧ 左右のホルダーハーネスベルトの長さを調節する。(P7参照)



・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・ホルダーハーネスを外した状態で使用しない。
お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。
お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。

前向き抱っここの装着方法 (つづき)

⑨左右の肩ベルトを両肩にかける。

⑩首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。(P7参照)

⑪お子さまの足が外に出ていることを確認する。

⑫左右の肩ベルトを調節し(P7参照)、お子さまの位置を調える。

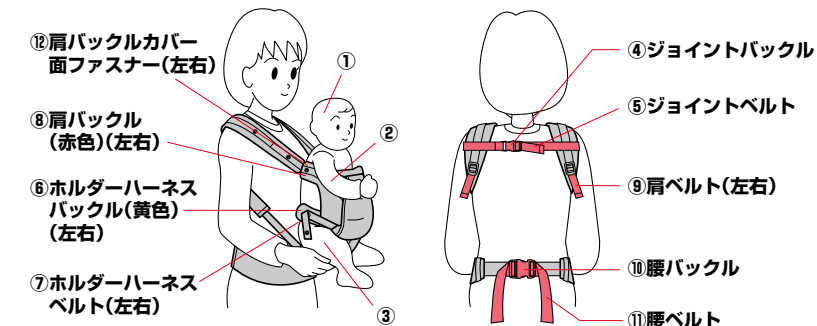
⑬あまったベルトをゴムでまとめる。(P7参照)

⑭鏡などに姿を映して、抱っここの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

前向き抱っここの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②お子さまの両腕が出ている
- ③お子さまの両足が出ている
- ④ジョイントバックルが確実にとまっている
- ⑤ジョイントベルトを調節している

- ⑥ホルダーハーネスバックル(黄色)が確実にとまっている
- ⑦ホルダーハーネスベルトを調節している
- ⑧肩バックル(赤色)が確実にとまっている
- ⑨肩ベルトを調節している
- ⑩腰バックルが確実にとまっている
- ⑪腰ベルトを調節している
- ⑫肩バックルカバー面ファスナーはとめていない



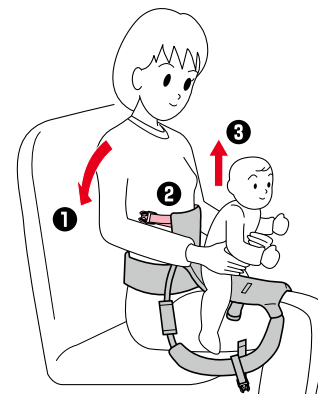
・鏡に映して、前向き抱っここの状態を確認してください。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

前向き抱っここの降ろし方

①安全な場所に座り、ジョイントバックルを外し、左右の肩ベルトをはずす。

②左右のホルダーハーネスバックル(黄色)を外す。

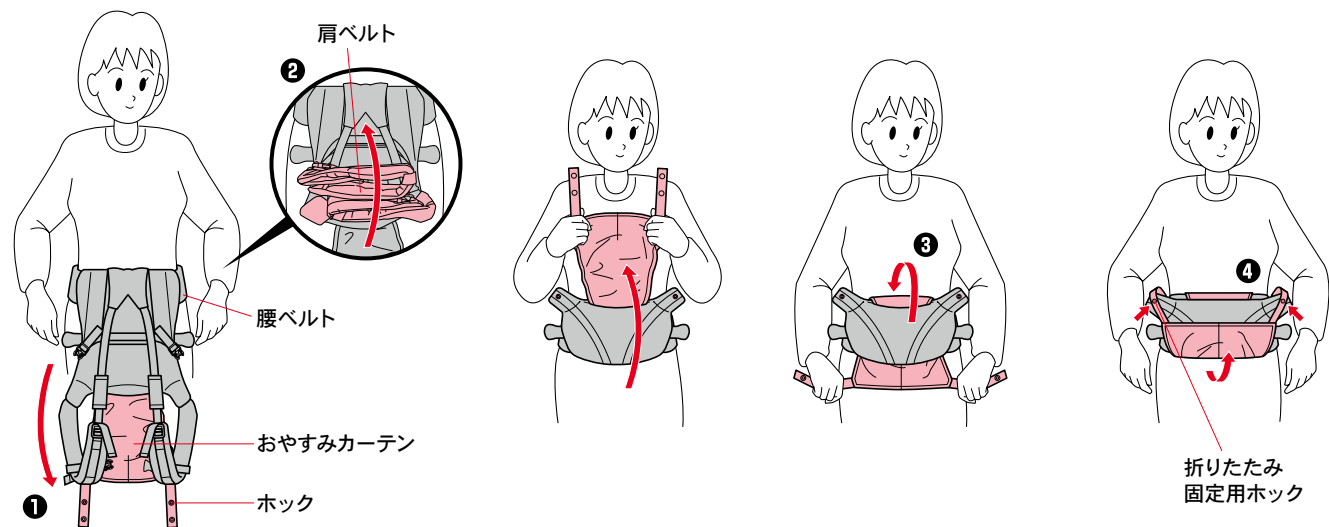
③お子さまを降ろす。



・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

腰ベルトを付けた状態で抱っこひもを折りたたむ場合 ※ヘッドサポートを取り外した時にのみ折りたためます。

- ①腰ベルトを付けた状態で、おやすみカーテンのフックを取り外す。
- ②左右の肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ③おやすみカーテンを腰ベルトの内側から外側にくるんと巻き付ける。
- ④おやすみカーテンのフックを折りたたみ固定用フックにとめる。(左右)



Q&A

- Q タテ抱っこ時、体が埋もれる感じになり、子どもの顔が見えない状態ですが、このまま使用してもいいですか？
- A お子さまの身長に対して背あて部分が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めウエストあたりに装着するようにしてください。(P17参照)
- Q 腰ベルトをどのあたりに装着すればよいですか？
- A 一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。
- Q ベルトの余りが長く垂れ下がって気になります。
- A ベルトはゴムでまとめることができます。(P7参照)
- Q タテ抱っこ時、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？
- A お子さまの肩が外に出てしまっても、使用上の問題はありません。ただし、特に腰すわり前のお子さまは上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。
- Q 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが…。
- A お子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもが直接触れないようにしてください。
- Q 前抱っこの際にサポートカバーのベルトが脇腹にあたって痛いのですが…？
- A サポートカバーベルトパッドを脇腹のあたっている部分にずらしてください。また、お子さまの位置が下がりすぎではないですか？
お子さまの身長に合わせて適切な位置で調節してください。一般的には腰ベルトはウエストより少し下腰骨あたりでベルト調節してください。
- Q 製品購入後、箱を開けたらニオイがするのですが、大丈夫でしょうか？
- A 製品特有のニオイがすることがありますが、品質上問題ございません。
- Q 抱っこひもとして使用する場合、肩ベルトカバーの面ファスナーをとめるのですか？
- A 抱っこひもとして使用される場合は、肩ベルトカバーの面ファスナーはとめないでください。(P3警告参照)
- Q 脱水機の時間の短時間とはどれくらいですか？
- A 1分以内で、脱水後、日陰での平干し乾燥してください。

点検について

- ・ご使用の前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずが無いことを確認してください。異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

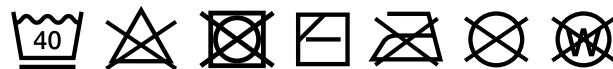
お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉

- ・湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉

本体、ヘッドサポート、よだれパッド



※洗濯ネット使用、弱く絞る



注意

- ・抱っこひもおよび、ヘッドサポートは乾燥機を使用しないでください。バックルなどの破損や、変形につながるおそれがあります。
- ・洗濯する際は、面ファスナーをとめてください。洗濯物を傷つけるおそれがあります。
- ・他の物とは別に洗濯してください。色落ちし移染するおそれがあります。
- ・蛍光剤入りの洗剤を使用しないでください。
- ・漂白剤を使用しないでください。
- ・漬け置きしないでください。
- ・脱水機の使用は、できるだけ短時間にしてください。
- ・濡れたまま放置しないでください。カビなどが発生するおそれがあります。
- ・洗濯後、充分乾燥させて使用してください。乾燥が不十分な場合、カビなどが発生するおそれがあります。

SGマーク制度について



SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、抱っこひもの場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。

〈抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

- ・ヨコ抱っこ : 新生児(体重2.5kg)から4カ月(体重7kg)まで
- ・タテ抱っこ : 首がすわって(4カ月)から24カ月(体重13Kg)まで
- ・前向き抱っこ : ひとり座りができて(7カ月)から24カ月(体重13Kg)まで
- ・おんぶ : 首がすわって(4カ月)から36カ月(体重15Kg)まで

賠償についてのご注意

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

製品の欠陥によって事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。

連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階 TEL 03-5808-3300

〈事故の届出に必要な項目〉

- ①事故の原因となったSGマーク表示の製品
イ)製品の名前、SGマーク番号 ロ)製品の購入先、購入年月
- ②事故発生の状況
イ)事故発生年月日 ロ)事故発生場所 ハ)事故発生状況
- ③被害の状況
イ)被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所 ロ)被害の状況と程度

保証とアフターサービスについて

- ・保証期間中(ご購入日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

アプリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〈電話連絡先〉

お客様サポートセンター TEL **0120-415-814**

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL **0570-004-155**

受付時間:AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)